



テーマ：リスク共生時代における棚田地域の未来を考える

開催趣旨： 近年、激甚自然災害の頻発など多様なリスクを感じながら日々を送っている私たちは、新型コロナウイルス感染症によって更なるライフスタイルの転換を迫られるようになった。このような状況下、中山間地域の棚田は過疎化や高齢化が進む厳しい状況にありながらも、関係者の懸命な努力によってどうにか維持されてきたが、ここにもさまざまなリスクが押し寄せている。なかでもコロナ禍による人の流れの制限は、棚田を守る人々・組織・活動に対して多様な課題を突きつけている。

一方、「貴重な国民的財産である棚田」の価値は、農作物の生産だけでなく、景観の保全、地域や食文化の継承、防災・減災、水資源の涵養、生物多様性の保全など図り知れない。

大都市一極集中の見直しが迫られる今日、棚田地域の小規模家族農業が持つ底力が注目され、「農のある暮らし」に関心を持つ都市住民も増えてきた。テレワークの普及もあり、半農半Xや三密のない生活など、新しい生き方を求めて棚田地域へ移住する人も珍しくない。

本シンポジウムでは、多様な分野の関係者や組織と棚田地域との関わり方を中心に、様々な視点から討論し、棚田の保全と未来への継承に向けた新たな道を探りたい。

日 時：2021年8月21日（土） 13:30～17:00

開催方式：ZOOMによるオンライン方式

参加費：無料（事前申込みが必要です）会員以外の方も無料で参加できます。

プログラム：

- 1 開会挨拶 山路永司 棚田学会長（東京大学名誉教授）
- 2 本シンポジウムの趣旨説明 菊地稚奈 棚田学会研究委員（九州大学総合研究博物館 専門研究員）
- 3 基調講演 棚田を核とした中山間地域の社会的価値の再考 ～多様なリスクとの共生時代を迎えて～
内川義行氏（信州大学学術研究院農学系）
- 4 事例報告
 - ① コロナ禍の影響による棚田保全活動停滞の現状と打開案 ～大山千枚田を事例に～
石田三示氏（NPO 法人 大山千枚田保存会理事長）
 - ② 小規模棚田の生き残り策 ～市民耕作者を増やす久留女木の挑戦～
鈴木一記氏（久留女木竜宮小僧の会事務局 とびあ浜松農業協同組合総務部広報課長）
 - ③ 労働力の減少を見すえた棚田保全への中間支援組織の活用について
～阿蘇の草原保全活動を参考に～
上野裕治氏（公財 阿蘇グリーンストック研究員 ランドスケープデザイナー）
- 5 総合討論 オンラインパネラー：内川義行氏、石田三示氏、鈴木一記氏、上野裕治氏
モデレーター：小谷あゆみ 棚田学会研究委員（農ジャーナリスト）
- 6 総括および閉会挨拶 安井一臣 棚田学副会長・研究委員長

主催 棚田学会 後援 農林水産省

協賛 公益財団法人 SOMPO 環境財団 特別協力 一般社団法人 AgVenture Lab

講演者・報告者の紹介

内川 義行 氏 信州大学学術研究院農学系



略歴：1968年生まれ、東京都出身。信州大学大学院森林科学専攻修了。博士（農学）。長野県職員（農業土木職）を経て2000年より信州大学農学部勤務。専門は、農業土木学・農村計画学。棚田を含む農山村地域に関する著書、論文は、『農村地域計画学』（共著、朝倉書店、2020）、『棚田地域の震災復興—阪神淡路大震災、中越地震、そして長野県北部地震—』（共著、農林統計協会、2019）、『農地環境工学（第2版）』（共著、文永堂出版、2016）、『棚田学入門』（共著、勁草書房、2014）、『姨捨棚田における区画形態の動態的産業遺産価値による文化的景観保全』（共著、農村計画学会誌、28、255-260、2010）など。棚田学会会員

石田 三示 氏 NPO 法人 大山千枚田保存会理事長



略歴：1952年、千葉県鴨川市生まれ。地元長狭高校卒業後、農業・酪農に従事。以前より中山間地域の人口減少や高齢化といった地域課題の解決のために様々な活動を地域住民と展開。農林水産省農業構造改善事業（リフレッシュビレッジ事業）を機に平成10年、大山千枚田保存会を地域住民と共に発足。平成13年より理事長を務める。平成15年、NPO法人化。地域の課題を資源と捉え、それらを活用した地域活性化を行うために「都市と農村の交流」をテーマに、棚田オーナー制度に代表される様々な事業運営を行っている。

鈴木 一記 氏 久留女木竜宮小僧の会事務局 とびあ浜松農業協同組合総務部広報課長



略歴：1965年、浜松市生まれ。1995年、久留女木の棚田に出会い写真を撮り始める。地元農家の勤めで2000年からお米づくりを始める。2010年、写真集「井の国棚田と伝承の里」を出版。2015年「久留女木竜宮小僧の会」を発足。2016年、NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」に撮影協力。同年、高齢化・過疎化の進む小さな棚田を活用し、棚田の根本的な問題解決に挑戦する意味で「おいしいお米づくり研究会」と1年を通したお米づくりを学ぶ「久留女木棚田塾」を発足。土壌分析や食味分析を基に地元農家と外部耕作者が共においしいお米づくりを目指す。耕作会員、棚田塾生、サポーターなど関わり方によるルール作りも行う。

上野 裕治 氏 公益財団法人 阿蘇グリーンストック研究員 ランドスケープデザイナー



略歴：1951年、熊本市生まれ。元長岡造形大学教授、博士（環境共生学）、棚田学会会員、阿蘇草原再生協議会会員。棚田と里山の環境保全、草原の環境保全など、農業畜産業といった人々の営みと生物多様性を柱とした環境共生のあり方、およびこれらの保全活動に都市住民がどのように関わるかということが現在の研究テーマ。現在、阿蘇地域の草原環境保全の手法である「野焼き」をサポートする「野焼き支援ボランティア」をボランティアリーダーとして約20年勤めている。長岡市在住時は山古志地域の棚田棚池の保全活動や、比礼地区におけるカカシ・プロジェクトを毎年実施してきた。

参加ご希望の方は

<http://forms.gle/Yo4yWK7qvT3AvGnv5>

に必要事項を記入してご送信ください



お問い合わせ：k-yasui@qf7.so-net.ne.jp 申し込み締切：8月10日（火）

参加申込みの個人情報は本シンポジウムの連絡以外には使用いたしません